遺物の発見現場（現在の様子）

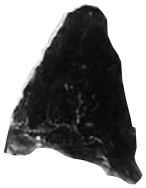
埋蔵文化財包蔵地　**大陣原遺跡**

History

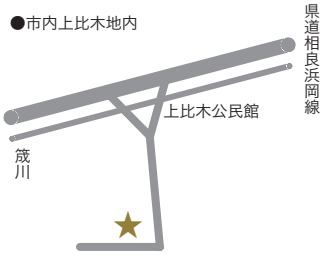
キラリを再発見

黒曜石と縄文人の交流

「大陣原遺跡」は、牧之原市との市境にある縄文時代〜弥生時代にかけての遺跡です。牧ノ原台地の中腹にあり、黒曜石で作られた弓矢の鏃（やじり）や石器のかけらなどが出土しています。蛍光エックス線による分析の結果、鏃は長野県八ケ岳の星ケ塔産、石器のかけらの一つは伊豆七島の神津島産であることが判明しました。驚くことに大陣原遺跡の縄文人は、食料となる動物を捕らえることに必要な殺傷力のある良い鏃を作るため、長野県や神津島など遠方との交流があったのです。



遺物/石鏃

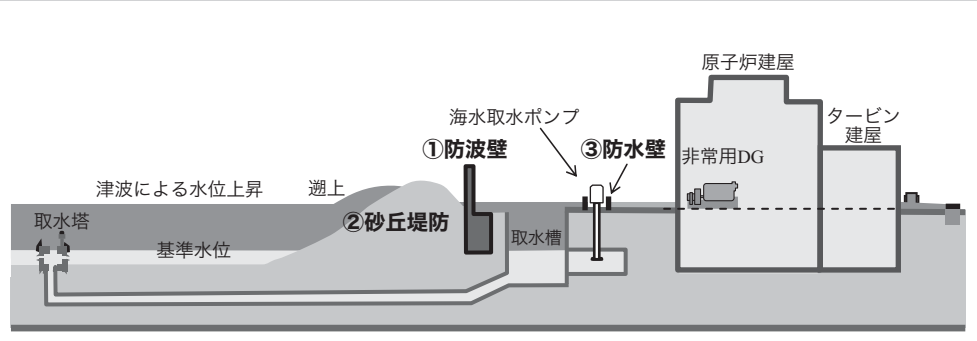


Atomic

暮らしと原子力

シリーズ　**発電所の津波対策①**

中部電力は、浜岡原子力発電所の安全性をより一層高めるための新たな津波対策を公表しました。この内容は、東北地方太平洋沖地震による東京電力福島第一原子力発電所の事故などから、これまでに得られた知見を反映しています。

津波が発電所敷地内に直接浸入することを防ぐため「①防波壁（海抜18メートル、総延長約1・6キロメートル）の設置」や「②発電所敷地前面の砂丘堤防および東側西側盛土のかさ上げ」をするとともに、津波による海水面上昇で、取水槽などから海水があふれても問題ないよう「③海水取水ポンプエリアへの防水壁の設置」を施すというものです。

津波が防波壁を越え、敷地内が浸水したことを仮定した場合の「建屋内浸水防止対策」と「緊急時対策の強化」については、次回以降紹介します。